

# 現代社会の新しい依存症 性依存 Q&A

原田隆之 (筑波大学人間系教授)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続

- Q1 性依存とはどんな病態ですか? ————— 2
- Q2 性依存が起こる背景にはどんな原因が考えられますか? ——— 3
- Q3 性依存の何が問題なのでしょう? ————— 5
- Q4 国内外ではどれくらいの患者がいるのでしょうか? ————— 6
- Q5 患者の年齢分布は? ————— 7
- Q6 性犯罪との関連はあるのでしょうか? ————— 8
- Q7 受診に結びつけるための対策は? ————— 10
- Q8 診断のポイントは? ————— 11
- Q9 治療はどのように進めますか? ————— 13
- Q10 治療中に気をつけなければならないことは? ————— 14
- Q11 専門施設の探し方や紹介の方法も含めて、  
専門医療について教えてください。 ————— 16

▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツ  
を制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

## Q1 性依存とはどんな病態ですか？

**A** 性的行動に対するコントロールを喪失し、家族・対人関係上の問題、社会問題などに至るようになった状態です。疾患として認められているものもあれば、そうでないものもあり、多様な病態を含みます。

物質依存や他の行動嗜癖同様、性依存も性的刺激への反復的曝露によって、脳内の報酬系が過剰に反応するようになった状態である<sup>1)</sup>。性的依存には多様な病態が含まれ、性的対象や性的快感を得るための手段が逸脱したもの(パラフィリア障害)、性的欲求が過剰で、数多くの性的パートナーとの性的行動、性風俗店やアダルトサイトなどの過剰な利用がみられるもの(強迫的性行動症)などがある。また、これらは相互に重複する場合もあり、性犯罪となるケースもある(図1)。

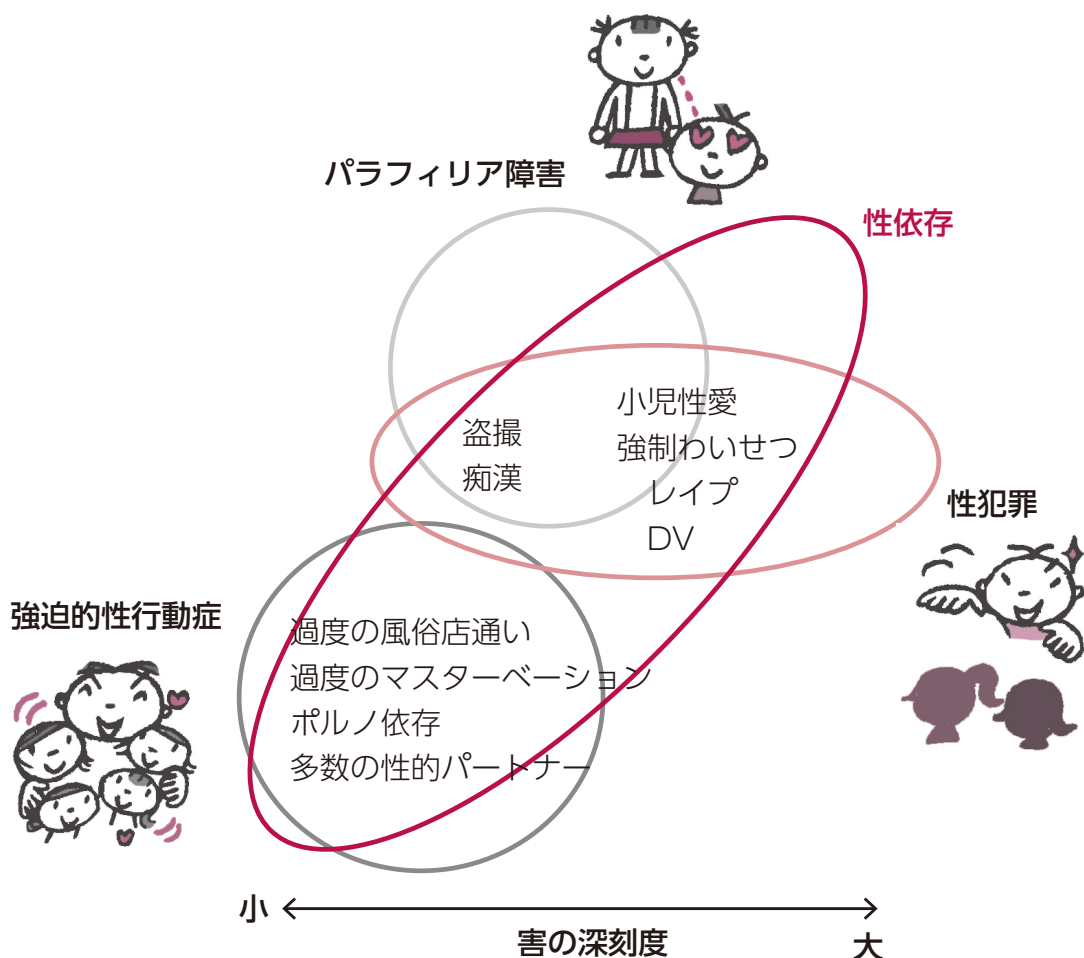


図1 性依存とその類似概念の関連

## 病態

ICD-11に新たに収載された「強迫的性行動症」が、性依存に最も近い疾患である。これは過剰な性的欲求ゆえに、多数の性的パートナーと性行為をもつ、ポルノ、アダルトサイト、性風俗店等を過剰に利用する、過剰なマスターベーションを行うなどの病態がみられる<sup>2)</sup>。また、「パラフィリア障害」も性依存に近い。そこには、性的対象の異常として、フェティシズム、小児性愛などが含まれている。また、性的満足を得るための方法の異常として、露出症、窺視症(のぞき、盗撮)、サドマゾヒズムなどがある。

しかし、これらのすべてが性依存であるとは限らない。性依存とされるためには、次に述べる症状を含まなければならない。

## 特有な症状

- ・ 渴望・とらわれ：特定の性的行動をしたいという強迫的な欲求を抱いている。また、常に性的とらわれ、ファンタジーを抱いている。
- ・ コントロール障害：その行動をしてはいけない、やめたいとわかっているにもかかわらず、抵抗できない。その行動がネガティブな結果(逮捕、解雇、離婚など)をまねいたとしても、その行動を繰り返してしまう。
- ・ 頻度の増大：物質依存でいうと耐性に当たる症状であり、その行動の頻度が増大する。多くの時間を性的行動とその準備に費やす。
- ・ 性的行動が重大な心理・社会的問題を引き起こしている。

## Q2 性依存が起こる背景にはどんな原因が考えられますか？

**A** 性依存の背景に対する研究は少なく、多くのことはまだわかりませんが、ほかの依存と同様、生物学的要因と社会心理学的要因の相互作用の結果とみるべきです。一番大きな要因として考えられるのは、不

安やストレスなどへの脆弱性とそれに対するコーピングの欠如です。

一般的な印象とは違って、性依存患者は必ずしも性的欲求が過剰であるとは限らない。また、もっぱら性的快楽追求のために、問題となる行動を反復しているわけでもない。その障害の中核は、性的行動がコントロールできないこと、そしてネガティブな心的状態などへのコーピングとして性的行動を用いている状態と理解すべきである<sup>3)</sup>。

### 生物学的要因<sup>4)</sup>

- ・神経生理学的メカニズムとしては、同一の性的刺激に反復的に曝露されたことによって、その刺激に脳内の報酬系(ドパミン系)が過敏に反応するようになったことが原因の1つとして考えられる。
- ・強迫的あるいは衝動的な性的行動の背景としては、セロトニン系の異常が想定されている。

### 心理学的要因

- ・依存症の認知行動モデルによると、一般に依存症はコーピングの障害と考えられており、性依存も例外ではない。
- ・依存症への心理学的な脆弱性としては、ネガティブな心的状態に陥りやすいこと、そうした状態に対するコーピングのレパトリーが乏しいことなどがあげられる。
- ・学習理論によれば、性的行動によって一時的にネガティブな心的状態が緩和されることを学習することが依存症の基本的なメカニズムである(性的快感による正の強化、不快な心的状態の消失による負の強化)。
- ・その他のパーソナリティ要因としては、自信欠如、共感性欠如、衝動性、対人スキルの欠如、女性へのゆがんだ認知などがあげられる。